

公表 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ことばの教室ことのは5号館			
○保護者評価実施期間	2025年 2月 3日		～	2025年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○従業者評価実施期間	2025年 2月 3日		～	2025年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数)	2
○訪問先施設評価実施期間	2025年 2月 3日		～	2025年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 3日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	【専門職員が保育所等への訪問支援を実施】 -専門的な知識と経験を活かし、保育所での支援ニーズに応じた適切な介入を行っている -言語聴覚士による専門的な視点から、児童の発達状況を評価し、具体的な支援方法を提案している	【多様な専門職の配置】 - 言語聴覚士、理学療法士、作業療法士など、複数の専門職で情報を共有を検討している	【事例検討会の実施によるチーム支援力の向上】 - 多職種間での支援方法の共有と意見交換を通じて、支援の質を向上させる - 実際のケースを基に、より効果的な支援方法を検討し、チーム全体のスキルアップを図る
2	【言語特化した専門的な支援サービスの提供】 -インリアルアプローチや感覚統合理論を活用し、子どもの発達段階に合わせた発達評価を実施 -ABA行動分析による特性理解を深め、個々の児童に適した支援方法を選択している	【専門性を活かした支援の実施】 - 言語療育に特化した評価、支援を提供している - インリアルアプローチや感覚統合理論、ABA行動分析など、専門的な手法を活用している	【保護者や園からのニーズへの更なる対応強化】 - 定期的なアンケートやヒアリングを実施し、支援ニーズの把握を徹底する - 保護者や園との連携を強化し、支援内容の調整や改善を迅速に行う体制を整える
3	【直接-間接支援を合わせた包括的なアプローチ】 -児童への直接的な関わりと、保育士への助言・指導を組み合わせることで、より効果的な支援を実現 -日常的な園生活の中での支援方法の定着を目指している	【効果的な支援体制の構築】 - 直接支援と間接支援を組み合わせた包括的な支援を実施 - 専門職員での情報共有や相談対応を日常的に行っている	【支援記録の情報共有の効率化と支援品質の向上】 - ミーティングなどの時間で支援記録の情報共有を行い支援に繋げる - 蓄積した情報を分析し、支援の効果検証や改善に活用する

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	【訪問員不足】 - 支援員が不足しており、一人での訪問対応が限界を超え、訪問回数や支援の質の維持が難しい状態	【人員体制の課題】 - 言語聴覚士の配置が訪問支援員1名のみで、増員や配置転換が進んでいない	【訪問スタッフ育成への研修強化】 - 訪問支援員の訪問スキル強化及び現職員の評価スキルアップ研修の実施 - 訪問スタッフの増加と支援品質向上を目指し、定期的な研修プログラムの実施
2	【訪問時間の制約】 - 訪問頻度の少なさや限られた訪問時間により、園の先生方との十分な連携が取れていない	【時間管理の問題】 - 園との事前調整や情報共有の時間確保が難しく、限られた時間での対応となっている	【共通の評価シートの活用】 - 共通の評価ツールを活用した園との効率的な情報共有システムの構築 - デジタルツール(Official LINE等)を導入し、リアルタイムでの情報交換や記録共有を可能にする環境を整備する
3	【情報共有体制の不備】 - 訪問支援で得られた情報を事業所内で共有する体制が整っておらず、情報伝達が不十分である	【情報共有の不足】 - 訪問支援後の報告会や定期的なケース会議の機会が十分に設けられていない	【情報共有体制の見直しと構築】 - 定期的なケース会議の開催と支援記録の電子化による情報共有体制の整備 - 月次での事例検討会実施と記録のデジタル化により、支援情報の確実な共有と活用を図る